

令和5年度「前期」海外研修・国際交流奨励生報告書

研究テーマ「ベトナムでの日本語教育について～技能実習生送り出し機関を訪問して～」

経済学部3年

吉澤栄奈

【渡航目的・研究テーマについて】

日本では少子高齢化を背景に、労働力の減少が問題となっている。労働人口が減り続けていく中で我が国はどのようにしてその労働力を確保していくのか、非常に興味深い。そんな時大学での授業を通して、技能実習制度を利用した学生が多く来日し、今日の日本の労働力の一部となっている現状を知った。政府は2019年4月に「特定技能」として人材の確保が難しい一部の産業分野において、一定の専門性や技能を有する外国人材を労働者として受け入れるという大きな方針転換を図った。ここから対策が急務であることがうかがえ、将来的にも外国人材に頼ることが予想される。そこで関係省庁の資料¹を見るとベトナムから来日する実習生が他国と比べて圧倒的に多いことがわかったため、実際に現地に足を運んでもともと興味のあった技能実習について調査したいと考えた。これから来日予定の方や実習を終えて帰国された方に話を聞くことで、この制度について理解を深めるとともに実態や法改善の余地についても考察したいと考えた。またそのベトナムでは、技能実習生数増加にあわせて年々日本語学習者が増加しているということを知り、その教育の現状についても興味を持った。そして、ベトナムでは日本をどのような国としてとらえているのか、日本人についてどう思っているのかというような「日本」についてのイメージも調査したいと考えた。これらのリサーチクエストを受けて、今回はベトナムにおける日本語教育という切り口からベトナムと日本の関係について研究することを決めた。

【渡航計画について】

8月6日（日）	日本出国
8月7日（月）	日本語学校訪問（ケア21・ロータス日本語学校様）
8月8日（火）	日本語学校訪問（ケア21・ロータス日本語学校様）
8月9日（水）	日本語学校訪問（ケア21・ロータス日本語学校様）
8月10日（木）	日本語学校訪問（日本アジア青年交流協会・JVC様）

¹ 出入国在留管理庁・厚生労働省 資料 （9月17日最終閲覧）

<https://www.moj.go.jp/isa/content/930005177.pdf>

8月11日（金）	自由散策
8月12日（土）	自由散策
8月13日（日）	自由散策
8月14日（月）	ベトナム・ハノイ出国

以上の日程で調査を行った。土日は日本語学校自体、授業がないので平日に伺う予定を立てた。11日も現地の日本語学校に訪問できるかメールを送ったが、返信が遅く対応できなかった。この計画通りに実際に訪問、調査を行うことができた。

ハノイにある日本語学校に焦点を当てて調べたが、そもそもそんなに数が多いわけではなく、しかも現地の人が行っているものについてはすぐに断られてしまった。メールや電話をしても返信がないところや話を聞いてもらえないところも多くあった。ロータス日本語学校様については、早くにアポイントを取ることができたため zoom を使った打ち合わせや調査の仕方、研究内容を共有することができ、私たちが調査しやすい環境を積極的に整えてくださった。JVC 様については、ご連絡が急になってしまったにもかかわらず訪問を許可し、送り迎えなど私たちの安全にも十分配慮して協力してくださった。両センター様がどんな研究をしたいのかを理解し寄り添ってくださったことで今回の訪問がスムーズに行えたのだと思う。私たちがベトナム語を話せないことを伝えるとインタビュー時などに日本語学校の先生を通訳として付けてくださり、そのおかげで聞きたいことを正確に伝えることができた。両センター様のご協力がなかったら今回の調査は成立しなかったので感謝してもしきれない。

【調査・交流方法について】

主に日本語学校に在籍する学生さんへのインタビューを通して、研究テーマについて調べた。具体的には、30分から1時間程度のインタビューをロータス日本語学校様で1日2名、3日間で6人、JVC様で4名行った。質問項目は以下の通り（一部抜粋）。

〈質問項目〉

- ・それぞれの学校に入学しようと思った理由、入学時期（日本語を学習している期間）
- ・学校に対して求めていること
- ・日本語の難しい部分
- ・日本語を学んでいてよかったと思うことやそれをどんな時に感じるか
- ・日本語を学ぶことの楽しさ、辛さやそれをどんな時に感じるか
- ・日本語を学ぶこと or 日本で働くことのどちらを先に考えたか
- ・技能実習制度を知っているか、いつ、どのように知ったか、周りでこの制度を利用している人はいるか

- ・ベトナムではなく日本で働こうと思った理由や周りの人からの反応
- ・日本で働くことへの期待と不安
- ・日本に行ったことがあるか、日本人についてのイメージ
- ・家族について
 - 今一緒に住んでいるご家族の人数や続柄、お仕事と居住地
- ・生活史
 - 生年月日や就労歴、最終学歴など

また、両センター様のご厚意で先生方とお話しする機会や学生さんたちと一緒にご飯を食べる機会をいただき、授業見学もさせていただいた。学生さんたちの普段の様子を見ることができてとても良い経験になった。どちらのセンターにも現地に滞在する日本人の方がいらっしゃったので、そのセンターについての概要をお聞きした。二つのセンターでは送り出し先の職種が異なったため、男女比や雰囲気の違いがあり比較することができた。

【調査・交流結果について】

まず初めにインタビュー結果をまとめようと思う。知人からの紹介やインターネットで知り日本語学校に入学された方がほとんどで、技能実習生や留学生として日本に行くこと、日本語能力試験に合格することを目的としている生徒が多かった。それぞれのセンターでは卒業までの目安の期間が定められており、その期間である程度の日本語を学んでもらうといったスケジューリングがなされていた。多くの学生たちは日本語学校に入る前はあまり日本語を学んでこなかったようだが、たった一ヶ月程度の学習でも簡単な受け答えはできるようで、学生さんたちの努力は並大抵のものではないことがよくわかった。日本語のどのような部分が難しいかという問いにはほとんどの学生が聴解や漢字を答えた。また、日本語を学習することに対してとても意欲的でそれぞれが楽しく主体的に学んでおり、会話ができたときや新しいことを知ったときに喜びを感じながら学習しているようだった。日本語学習における辛いことを聞くと、授業の発表で緊張したり一回で聞き取れないことに不安を感じたりするという回答をした学生もいたが多くの学生は「ありません」と答えた。私にはこれが衝撃的で、どれだけ自分がやりたくて勉強していることであっても勉強というからには何かしらの辛さを感じているのではないかと思ったが、行き届いた指導や学生の懸命な努力で心から楽しみながら勉学に励まれていることが分かった。

技能実習制度については、インターネットや知人からの紹介、それまで通っていた大学や専門学校での説明会などで知ったケースが目立った。ベトナムではなく日本で働きたいと考える理由としては、日本の技術を学ぶことやより多くの収入を得るという技能実習としての本来の目的のほかにも、新しい環境のもとで日本語や日本人の働き方を学びたい、日本

人のまじめさや一生懸命さを尊敬しているからといった日本を好ましく思ってくれている返答が多く、うれしい気持ちになった。どの家庭でも日本語を学び、技能実習生として渡日することに賛成して応援してくれているようで、家族や親族からの期待や信頼を背負って勉強していることを考えるとやはり感心させられる。

これらの受け答え全体を通して、学生さんたちの日本語を学ぶことに対しての熱意を知ることができた。学生さんたちはどちらのセンターでも寮に入っており、文字通り朝から晩まで勉強漬けの日々を送っている。寮と学校という比較的閉鎖された空間の中でも友達と励まし合ったり、自分の成長を日々実感したりして充実した生活を送れているというのが彼らの瞳の輝きから理解できた。親元を離れて一人勉強しにこれらの施設に通っている学生さんたちを見て私も努力しなければと良い刺激になった。

私は、大学の授業で日本にきた技能実習生が非常に劣悪な環境で苛酷な労働を強いられているというドキュメンタリー番組を観た。そのような苦痛な生活に耐えきれなくなり、逃げ出してしまう学生さんもいると、技能実習生についての番組を見ると必ずといっていいほど報道される。このような状況が生まれてしまう理由の一つに、送り出し機関からの搾取があると聞いて、私はこの業界に対してあまり良いイメージを持っていなかった。しかし、今回の訪問を通じてこれほど学生さんたちが生き生きと楽しく学習できているのは、日本で早く生活に慣れることができるようにという配慮の下活動されている方々がいるからこそであると実感し、私の認識が大きく変化した。また、JVC様のほうでは先生方とお話しする機会を設けてくださったのだが、この方たちは留学生や技能実習生として日本に滞在した経験がある方々で、楽しいことばかりではなかっただろうご自身の経験を踏まえても、「経験と知識を伝えたい」「日本にぜひ行ってほしいと思う」とおっしゃったことが、私の何よりの救いだった。

ここからは学生さんたちとの交流について書きたい。両センター様には、訪問した計4日間すべてで学生さんたちとお昼ご飯を一緒に食べることを提案していただき、各日4人の学生さんと交流することができた。少し恥ずかしかったり緊張していたりであり深い話はできなかったが、好きなもの、趣味や日本に行ったらしたいこと、日本のどこに技能実習生として派遣される予定なのかを聞くことができた。私たちにも積極的に話しかけてくれ、そのようなところからも日本で働くことへの期待や楽しみな気持ちが伝わってきた。また現地の料理を食べたため、普段学生さんたちがお昼に食べるようなものを一緒に味わうことができて楽しかった。

ロータス日本語学校の生徒さんたちとは最終日にもお会いして、ハノイ市内を一緒に回ってもらった。現地の人がよく訪れるという市場に行くと品物の多さに驚いた。ハノイ市外から日本語学校に通うために寮に入って暮らしている生徒さんが多くおり、このような場所には初めて来るようだった。その後は彼らが授業後によく飲む飲み物を一緒に飲んだり、

日本の歌を披露したり、有名な場所に連れて行ってもらったりした。現地の人々がどのように生活しているのかを見て体験することができた良い機会であった。日本のアニメがベトナムでも人気なようでワンピースはもちろん、ドラえもんのアニメ主題歌を授業に取り入れて日本語学習に利用したり、町中の壁にサンリオキャラクターが描かれていたりした。私はあまり歌うのは得意ではないが映画ドラえもんの主題歌「虹」を、歌詞を見ながら一緒に歌った。彼らの生活の一部を垣間見ることができたようで、非常に充実した日だった。

ベトナム人は親切で優しさにあふれている方ばかりで、困っていることがあれば私たちのような見知らぬ外国人であっても救いの手をすぐに差し伸べてくれる。ベトナム語が理解できない私たちにとって現地の公共交通機関などは特に不安だったが、毎回なんとかして目的地にたどり着くことができた。外国人で、言葉が通じていないということを理解して寄り添ってくれたおかげである。私はそのような国民性に強く惹かれ、心から居心地の良い国だと感じた。

【今後について】

ベトナムは経済成長が著しく、GDP は 1990 年頃から 5 %、コロナ期間でも 3 % 弱の成長を見せている。街には活気があり、人々がそれぞれの生活を楽しんでいるように感じた。そして生活水準は向上し続けていくであろう。元気や将来性があるベトナムに比べて日本では経済が停滞し、今後人口は減っていく。このような国にどのような未来が待っているのだろうか。今回、日本への期待や日本人のイメージについて調査し、身をもって感じてきた私は、ベトナムの人が日本に来て落胆しないか非常に心配である。私は日本という国に期待と憧れを抱いてやってくる技能実習の学生さんたちに、胸を張ってこの国のすばらしさを紹介できるよう、この国で生まれ育ち暮らしていることを誇りに思っていたと感じた。

今後、交流した学生さんたちが日本に来る予定なので、私は彼らが少しでも早く日本での生活に慣れることができるようなお手伝いをしたいと考えている。今回の交流を通じて知り合ったかけがえのない友達、そしてこれから技能実習生として来日するすべての人々がより快適な日本での実習生活を送ることができるように、協力的な姿勢で生きていきたい。

最後に、ケア 21(ロータス日本語教育センター)様、日本アジア青年交流協会 (HT HANOI JVC) 様のご協力がなければ、今回の調査は実施できなかった。両センター様には今回の研究および交流活動において多大なお力添えをいただいたこと、この場を借りて深く御礼申し上げます。そしてこれからも、ご縁があれば交流を続けていきたいと考えている。

